



あいさつに期待すること

朝、下足場前で立っていたり、作業をしていたりすると、子どもたちから笑顔で、元気な声で「おはようございます」と声をかけてもらえます。とても幸せな時間です。思わず笑顔になったり、元気をもらったりするあいさつは、「自分から」「目を見て」「ていねいに」行われているあいさつです。子どもたちにも、機会を捉えてこの素敵なあいさつの意義を話し、伝え、広げていこうと思っています。下に示すのは、以前見つけた雑誌の記事です。相手の心を思いやり、おしはかることの原点があいさつであることを、私もあらためて心に留めておきたいと思います。



○あいさつの意味を考えたことがありますか？

「こんにちは」の中に、漢字が隠されています。どんな漢字がわかりますか？そう「今日は」ですね。「こんにちは」は昔、「今日はご機嫌いかがですか？」と書いていました。お昼に初めてあった人に体の調子や心の様子を気遣っていたのです。つまり、相手に対する思いやりですね。

では、「おはよう」はどうでしょうか？これも、もともと次のように書いていました。「お早くから、ご苦労様です。」こんなに朝早くから、お仕事ご苦労様でございます、という意味なのです。これも、朝早くから仕事をする人に対する心遣いの言葉ですね。つまり、相手に対する思いやりです。

「こんばんは」はどうでしょうか？まず、「こんばんは」でしょうか、「こんばんわ」でしょうか。今までの流れから考えると、後に言葉が続くであろうから、「こんばんは」と考えるのが普通ですね。そう。「こんばんは」が正解です。実は、「こんばんは」にも続きがあります。昔の人たちは、今と違い、夜になると、一人の人の家に集まって語り合うことが多かったそうです。長い夜の楽しみ方だったのですね。つまり、「こんばんは」のあいさつは、「今晚は、ご予定はいかがですか？」と、相手の都合を優先させて、話をうかがう、思いやり(つまり、おしはかり)の言葉だったのです。

「よくあいさつをしていますよ」

保護者・地域のみなさまからこのような声を聞くと、とても嬉しくなります。私は、あいさつというのは、1日の活動の始まりであり、そのあいさつをベースに、活動の充実は図られると考えています。だからこそ全校で、あいさつを充実させたいです。まずはあいさつの「型」。そしてその活用です。あいさつができたお友だちが全校中○人で□%。そんな数値目標は、あくまでも「型」を身につけていくための手立てです。

小中学生のときに身につけたあいさつが、地域で生かされ、それが生活の一部になる。また、将来の志免町を創る世代になったときに自分が学んできた「型」や「思い」を広げる立場になる。10年後、20年後、今の子どもたちが志免町の中心にいることを考えたとき、今の取組が少なからず子どもたちにプラスに働いていることを願っています。



朝のあいさつ



職員室に入るときあいさつ